

令和7年度教員長期研修

研修種目 特別支援教育

学校教育目標達成に向かう 授業ができる教員集団の再考

ー 授業づくりにつながる2分間対話と

「冊子」作成グループ会議の対話を通してー



広島県立福山北特別支援学校

柳 優美

※本資料中のイラストには、Microsoft Copilot (画像生成機能) に所属校のキャラクター「フッキー」を読み込ませたり、イラスト作成指示を出したりして、作成したものが含まれます。

主題設定の理由 [所属校の現状]



教職員数(160名)

- ・人的資源が豊富
- ・年齢構成に偏り

校内研修

- ・研究テーマに基づく研修
- ・学び合い授業

校内研修の中で共に学び合い高め合う集団

児童生徒の学びの姿を他者と共有したい気持ちをもつ教員

[目指す所属校教員の学びの姿]

日常的に他者の考えに
触れる学びを意図的に実施



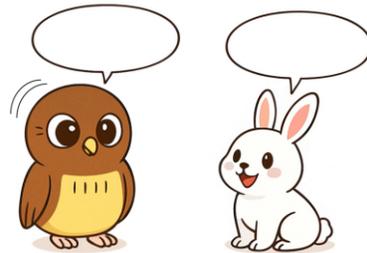
より活発な学び合いが
促進される

本研究における
他者の考えに触れる学び

対話

日々の授業づくりが変わるきっかけ

授業づくりに
つながる2分間対話



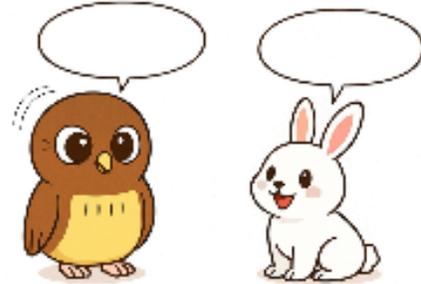
「冊子」作成グループ
会議に関わる対話



対話を通じて所属校の教員一人一人の
授業力を更に高め合う集団

研究の基本的な考え方

授業づくりにつながる2分間対話



- ▶ 相担や学年の先生と1対1で対話
- ▶ 短時間対話 週1回／木曜日／15時～／2分間
(多忙でも続けられるようにする)
- ▶ 対話の方向性
(授業づくりにつなぐ)
 - 1分間: 児童生徒の姿
 - 1分間: 指導の工夫
- ▶ 学びを共有、省察
対話内容を学部のTeams掲示板に書き込む
筆者や管理職がコメント

研究の基本的な考え方

「冊子」作成グループ会議に関わる対話



- ▶ 名称「福北版スタートアップブック」を作成する
(本研究では「冊子」とする)
- ▶ 授業づくりの基礎的内容をまとめたもの
(教育研究部と教務部の主任たち4名が発案)
- ▶ 作成グループごとに対話しながら作成を進める
筆者と主任たち／メンバー間／
筆者と作成グループメンバー

研究の基本的な考え方

授業力を高め合える教員集団の
基盤を整える一端を担う



授業づくりに
つながる
2分間対話



「冊子」作成
グループ会議
に関わる対話

相担間の
共通理解

校内研修など

対話

対話

対話

目指す
教員集団

学校教育目標を具体的な授業場面に
結び付けられる考え

「冊子」を使った授業づくりの
基礎情に関する対話による
共通理解

本研究では…

対話（他者の考えに触れる学び）を通じて、所属校の教員一人一人の経験を日常的に生かし、授業力を高め合える教員集団の在り方を再考していく

取組の実際と考察



	内容	意図
事前準備	・対話の意図や対話の方向性を確認	・深い学びの姿を具体的にイメージし、日々の授業に小さな変化を生む
	・実際に2分間対話の練習	・「テーマ」を体感・実感できる
取組	・合計5回の2分間対話 ・放送による合図（開始時・1分経過後・終了時）	・回数や枠組みを明確化
	・対話内容をTeamsで簡潔に記入	・自分の考えを整理する省察の機会を設定
	・学部会での対話とTeamsの記入	・全員が参加しやすい環境設定

取組の実際と考察

○分析



[事後アンケート]

- ・2分経った後も話を続けた 51名／66名(77.3%)
- ・指導の工夫を対話した 65名／66名(98.5%)
- ・翌日以降の指導に生かさせた 60名／66名(90.9%)

[アンケート自由記述]

共通理解の深まり 自分の思考・行動を振り返る機会

- ・相担の考えも知ることができ、授業に関する対話も増えた
- ・自分が見えていない児童の姿を教えられたり、変化を共有したりすることができた
- ・相担の考えも知れるし、指導の工夫も共有することで同じ目標を目指して指導できる
- ・指導の工夫について話すことで、自分も意識できた
- ・対話で、目指していく生徒像に向かった指導方法や言葉掛けなどを知ることができた
- ・相担と対話したり、チャットで共有された児童の変容や指導方法を見たりする中で、自分には無い考え方を得ることができた

取組の実際と考察



○考察

- ✓ 2分間という時間枠 → 対話のきっかけとして有効
- ✓ 対話の方向性を示す
 - 短時間でも内容が焦点化
 - 授業づくりにつながった

授業づくりにつながる2分間対話

- 共通理解を深める
- 自分の思考・行動を振り返る機会

取組の実際と考察

○「冊子」作成業務の事前準備



主任

何を誰に頼む？
いつまでに何を？

役割や進め方が
見えず不安

筆者が主任の立場であったら…と
考えてみた

提案

- ・「冊子」のページ内容案を示す「お弁当箱」活用
- ・「冊子」作成工程等を示す「スケジュール詳細」

お弁当箱例（内容及びレイアウト案）

〔個別の指導計画〕

○教育支援計画との関連

※教育研究部主任作成の図を参考に、より分かりやすく。

○個別の指導計画を書くに当たって
→記入について（「個別の指導計画のスケジュール」「個別の指導計画 保護者提示までの流れ」「個別の指導計画作成の留意点」）は、「教務事務ハンドブック」へQR遷移？

- ・参考にするもの学習指導要領解説「自立活動編」「各教科等編」
- ・授業づくり編で学習指導要領に示す段階に触れていれば、そこの関連（実態把握）
- ・書くときに「〇〇してみよう（実態把握？）」的な…

○校務支援システム内で作成について

○個人情報であることの注意について

取組の実際と考察



○「冊子」作成グループ会議の 筆者の動き

[筆者と主任との対話]

会議前の相談に対応

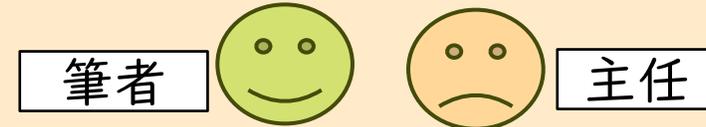
- ・メンバーの意見を生かせる対話を促す
- ・安心してグループ会議を進められる環境

会議に同席

- ・主任の言葉の補足

会議後の相談に対応

- ・事実に基づきフィードバック



内容と割振りの相談

第1回会議

メンバーが共通理解をもち、進めているかな。

安心感



主任

内容について話しましょう。

メンバー

「対象は、他校からの転任者も含めますか？」



筆者

いえ、採用期の先生方が対象です。

「それなら…。」

→ 主任が納得し進められるよう後押し

→ 主任の主体的な進め方を促進

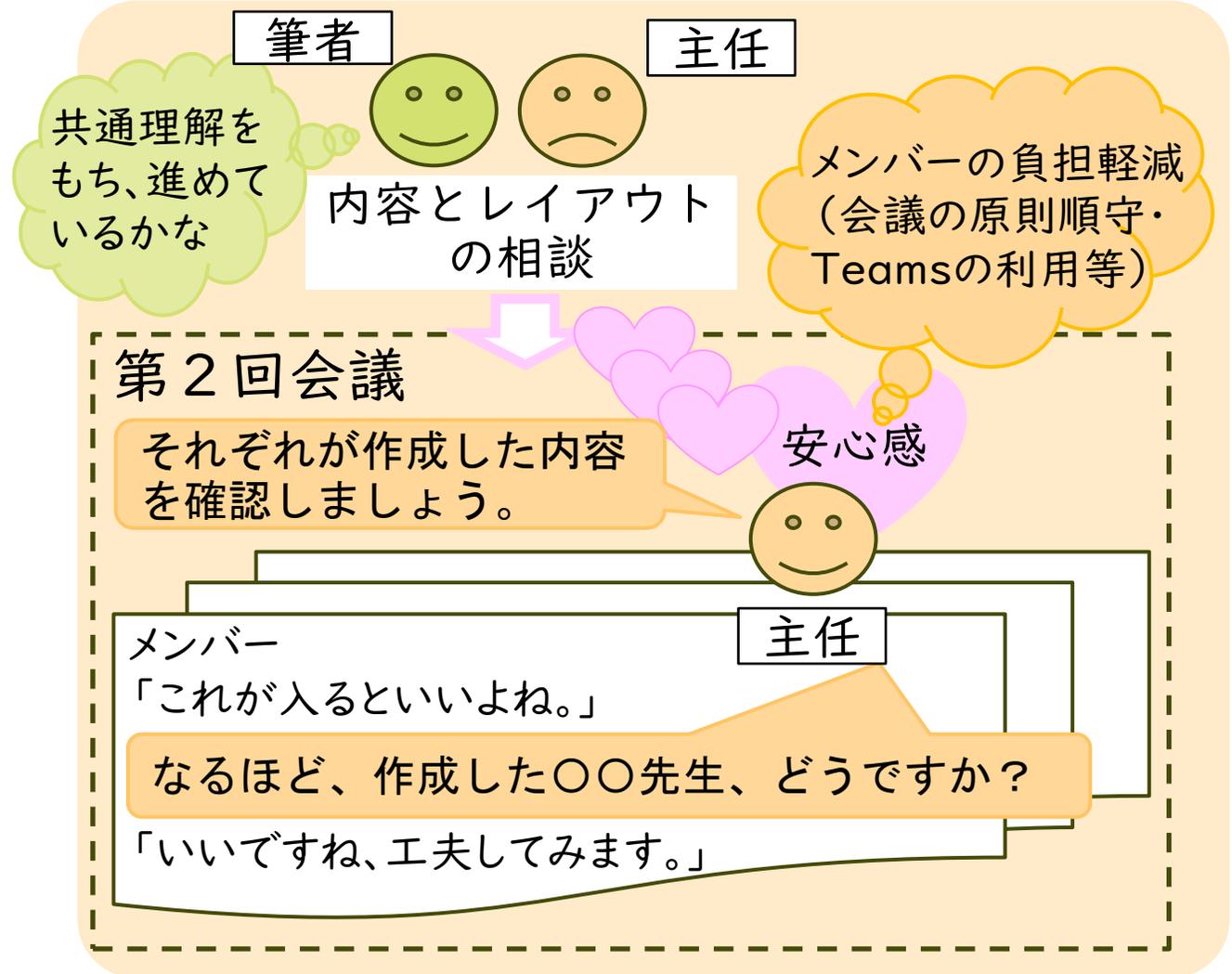
取組の実際と考察



○「冊子」作成グループ会議の 筆者の動き [メンバー間の対話]

会議中

- ・メンバーが共通理解をもって取り組んでいるか丁寧にフォロー



→ 採用期の教員が最初に知りたい内容かという視点で活発な対話

取組の実際と考察



○分析

[インタビューより]

- 主任たちの声
 - ✓ 会議設定や対話について
- メンバーの声
 - ✓ 主任たちの働きについて
 - ✓ 担当した内容について
 - ✓ 会議の実施とメンバー間の対話について





【主任たちの声】

会議設定や対話について

会議設定や負担感について 円滑な会議運営について
発言について

- ・会議の負担はなかった
- ・時間が決まっていたので、メンバーみんながパフォーマンスを意識して会議に参加できたと思う
- ・内容によっては20分を超えたが、メンバー全員と話し合い決めることができた。
- ・会議回数が設定されていることで、内容や程度、時期に見通しをもって話し合うことができた

取組の実際と考察



【メンバーの声】

主任たちの働きについて

円滑な会議運営について

- ・短時間で話をまとめるために主任が動いてくれたのでスムーズな議論ができた
- ・主任がうまく取りまとめてくれたので、スムーズに進んだが大変だったのではないかと思う

担当した内容について

発言について

- ・自分の意見を盛り込めた
- ・授業づくりの基礎情報を盛り込めた

取組の実際と考察

【メンバーの声】



会議の実施とメンバー間の対話について

会議設定や負担感について
発言について

- ・会議がスムーズに終わり、**負担にならず**、私自身もよく分かっていないことを確認できたので、よかった
- ・会議を行うことで、他の先生の考えや自分の悩み、疑問を話し合うことができたのでとても良い機会になった
- ・Teamsの利用もあり、**短時間で会議**を行うことができ、よかった
- ・話し始めると意見がたくさん出るので、時間が短いと感じることもあったが、**負担なくできる時間**だと思う
- ・**適切な時間設定**だった

取組の実際と考察



○考察

- ✓ 主任たちの働き → メンバーが発言しやすい場をつくれた
→ 話し合って決めることができた
- ✓ 各ページの検討内容の明確化
→ 経験を想起しやすく発言が増加した
→ 対話が教員の内省を深める機能を果たした
- ✓ グループという適度な人数規模
→ 意見の表出を後押しした、対話が促進した
- ✓ 20分間会議 → 集中を高めた、負担を軽減した
- ✓ Teams併用 → 情報共有が効率化した

他者の考えに触れる学びを意図的に実施
□ 活発な学び合いを促進

取組のまとめ

成果

授業づくりに
つながる2分間対話



「冊子」作成グループ
会議に関わる対話



- ・教員一人一人の経験が日常的に生かされ、他者の考えに触れる学びとなった
- ・授業づくりを高め合える教員集団を形づくる基盤を整える一端になった

取組のまとめ

課題

○授業づくりにつながる2分間対話

アンケートでは

- ・48名／72名(66.7%)の教員が継続を希望
- ・形態については意見が分散

→ 時間設定は一律運用は難しい

→ 形態などを学部実情に合わせて設計

→ アンケートに未回答の教員の声も含めた検討が必要

○「冊子」作成グループ会議の対話

- ・当初対話の視点について共通理解をもって進めることに課題



全体のまとめ

今後の展望

授業づくりにつながる2分間対話

- ・教育研究部が主導し検討
- ・学部単位で試行 継続性・負担感など意見を収集
- ・頻度・時間・記録方法の段階的な見直し
→ 所属校に合う、持続的な対話の在り方を模索

「冊子」の活用と改訂

- ・次年度より授業づくりの基礎情報の共通理解の起点として活用
- ・日常の対話で出た気づき・工夫を収集し改訂する循環
→ 学校教育目標の言葉を授業場面と結び付けていく

全体のまとめ

ミドルリーダー

- ・チームとして捉え、立ち返れるよりどころをもつ
- 今回は長尾氏の「16の条件」を活用



仕事を通じてチームを育む16の条件(長尾彰(2019)の表を基に担当者が作成)

協働	1	一人では達成できない
	2	全員で協力せざるを得ない
	3	メンバー同士が仕事を通じて何を共有したか、明確になっている
	4	対話を通じてお互いの意見を共創できる
状況設定	5	制限(お金・時間・道具・人材)が明確になっている
	6	「テーマ」を体感・実感できる
	7	チームの「WHY(なぜやるのか)」が明確になっている
	8	自分の考えを整理するための「省察(振り返り)」と「観察」の機会が十分にある
目標／ゴール	9	ゴールが明確になっている
	10	目標と指標を自分たちで決められる
	11	再チャレンジが可能
	12	現実と理想のギャップを明確にできる
フロー	13	参考にできる事例が少ない
	14	最初の時点では達成できるかどうか分からない
	15	難易度が調整できる
	16	フローが体験できる

※当てはまる項目が一つでも多い方が「よいチーム」になりやすいが、全項目を満たさないとチームづくりができないわけではない
※フロー状態とは、心理学者のミハイ・チクセントミハイ氏により提唱された「フロー体験」がベースで、時間や身体感覚を忘れるほど没頭している状態。チャレンジのレベルが能力より高すぎると不安が強くなり、能力がチャレンジのレベルよりも高すぎると、退屈を感じる。このバランスの取れた状態がフローであると述べている

全体のまとめ

ミドルリーダー

・タイムマネジメント徹底

- 多忙な現場で負担が少なくなるよう考慮
- 会議は目的・時間・役割を明確化
- 短時間・少回数で学びのある取組



・現場の声

- 即時に反映
- 教員の反応や意見を受けてすぐに調整

・心理的安全性を保つ

- 相手の話をまず受け止め、内容を具体化した上で自分の意見を返す
- 発言しやすい雰囲気づくりを心掛ける

・組織が継続できる形で終わる

- 取り組んだ教員が「やってよかった」と感じられる状態
- 学校全体で続けられる仕組みを意識

引用・参考文献

広島県教育委員会:「広島県教員等資質向上指標」【https://www.nits.go.jp/service/shihyo/files/shihyo_hiroshima_20250207_001.pdf】(最終アクセス令和8年3月11日)

中央教育審議会(令和4年):「「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～(答申)」

中原淳(2018):「働く大人のための「学び」の教科書～100年ライフを生き抜くスキル」かんき出版

中原淳・長岡健(2009):「ダイアログ対話する組織」ダイヤモンド社

中原淳・田中聡(2021):「ケースとデータで学ぶ「最強チーム」のつくり方 チームワーキング」日本能率協会マネジメントセンター

山口裕幸(2020):「チームの有効性とその規定要因ー心理学のパースペクティブから」日本労働研究雑誌No.720

長尾彰(2019):「宇宙兄弟今いる仲間であまくいくチームの話」学研プラス

文部科学省(平成31年):「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」

柳優美(2025):「知的障害のある児童の深い学びにつながる指導の工夫ー知識・技能を構造化する場面を意図的に設ける視点の整理を通してー」広島県立教育センター【<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/educenter/r07choukenzenki.html>】(最終アクセス令和8年3月11日)

Money Forward:「マネーフォワードクラウドTeams(チームズ)の使い方とは?初心者向けに解説」【<https://biz.moneyforward.com/work-efficiency/basic/2160/?msockid=247c8a78d01a66d022489fbcd14767e4#Teams>】(最終アクセス令和8年3月11日)